

フランス国立科学研究センター(CNRS)の北アジア地域事務所は東京に設置され、CNRS—より広くはフランスの研究機関—と日本、韓国、台湾の研究機関との国の機関としての仲介を担当しています。

その役割は下記のとおりです。

情報提供

- CNRS のために科学技術の情報を収集する。重点分野を把握し、優秀な研究所をマークする。
- パートナーになる可能性のあるアジアの研究機関に CNRS の研究チームについての情報を提供し、フランス訪問の手配のため、CNRS 国際関係部と連絡をとる。

受け入れ

- 日本に派遣されたフランス人研究者を受け入れ、日本側パートナーとの研究を支援、場合によっては通訳・翻訳のサービスを提供する。
- CNRS およびフランスの研究関係の幹部クラスの視察を準備する。

発展

- CNRS のラボラトリーと北アジアの大学や研究機関との関係を開始、強化する。
- CNRS の開始した海外協力機関との協力活動を支援、特に知的所有権の取り扱いに注意を払う。
- 研究者(特に若手研究者)の CNRS への、または CNRS からの異動を推進する。

組織化

- CNRS の提供するツール(国際科学研究プログラム PICS、国際研究グループ GDRI、国際提携ラボラトリーLIA、国際共同ユニット UMI)によって、研究者の協力関係強化を支援する

代表

- 学術関係の大きなイベント(会議、授賞式など)に CNRS の代表として出席する。CNRS の長の代理として協定に署名する。

CNRS 北アジア地域事務所の代表は、在日および在韓フランス大使館、フランス在台協会の科学技術部・文化部と緊密に連携しています。